

ビジネスアイディアの概要

パーキンソン病は、65歳以上では100人に1.0～1.8人の有病率で、国内に約20万人程度いると推定されている。パーキンソン病は「進行性」の病気であるが、薬物療法やリハビリで症状を管理でき、**初期に症状をスクリーニングすることが重要**である。

パーキンソン病の特徴的な症状は、手足の震え（振戦）や顔の筋肉の硬直、発声の変化が見られ、特に体の左右で非対称となる症状が初期から出現する。

そこで、**筋肉が発する音【筋音】と声の特徴を複合的に組み合わせたシステムの開発**を行う。

ビジネスアイディアを事業化するための課題

1. 筋音計測システムの具現化
筋肉の音を取得し、計測可能なシステムを開発する
2. 音声評価システムの具現化
音声情報から声の特徴を抽出し（STM）、評価可能なシステムを開発する
3. ビジネスモデルの検討
機器開発に向けたビジネスモデルの検討を行う

事業化の見通し

- ・筋音の収集ができる装置の試作ができ、今後、筋音と運動生理学の関係の検証を実施予定。
- ・音声に関する特徴量抽出技術により、声の評価可能なシステムの開発を継続する。
- ・順天堂大 脳神経内科の協力を得て、臨床的な研究を進める予定。

➡クリニックで自由診療とする非医療機器を想定し、3年後のサービス化をめざす。

事業者情報

土井利次（代表）：NTTデータCCS

本間康弘：筑波大学 医学医療系整形外科

道上峻介：wavelogy株式会社

鵜木祐史：北陸先端大 生体機能・感覚研究センター

ビジネスアイディア概要図等

